

当院採用の吸入薬一覧(成人用)

2018年12月20日作成

分類	デバイス	商品名	一般名	製剤写真	効能・効果	用法・用量	特徴
ステロイド	DPI 自吸式	パルミコート100μgタービュヘイラー112吸入 パルミコート200μgタービュヘイラー112吸入	ブデソニド		気管支喘息	1回100~400μgを1日2回 1日最大1600μg	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の粉量が少なく、吸った感じがほぼしない ・残り使用回数目盛が小さく、色で表示されるため残量がわかりにくい ・妊婦への安全性が高い
	pMDI 噴霧式	オルベスコ200μgインヘラー56吸入用	シクレソニド		気管支喘息	1回100~400μgを1日1回 1日最大800μg	<ul style="list-style-type: none"> ・完全溶解型で吸入前に振る必要がない ・1日1回で投与が可能 ・嘔声が少ない
長時間作用型β刺激薬(LABA)	DPI 自吸式	オンブレス吸入用カプセル150μg(7日分/枚)	インダカテロールマレイン酸塩		慢性閉塞性肺疾患	1回150μgを1日1回	<ul style="list-style-type: none"> ・カプセルの交換が必要 ・正しく吸えているときは音が鳴るためわかりやすい
	DPI 自吸式	セレベント50ディスクス(60吸入/本)	サルメテロールキシナホ酸塩		気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患	1回50μgを1日2回	<ul style="list-style-type: none"> ・60回連続使用可能でディスク交換の必要がない ・残り使用回数が数字で表示されるが小さい ・開封後24ヵ月以内に使用する
抗コリン薬(LAMA)	DPI 自吸式	エンクラッセ62.5μgエリプタ30吸入用	ウメクリジニウム臭化物		慢性閉塞性肺疾患	1回1吸入(62.5μg)を1日1回	<ul style="list-style-type: none"> ・操作が簡単(開→吸→閉のみ) ・残り使用回数目盛が大きく見易い ・開封後6週間以内に使用する
	SMI 噴霧式	スピリーバ2.5μgレスピマット60吸入	チオトロピウム臭化物水和物		慢性閉塞性肺疾患 気管支喘息	<p>【慢性閉塞性肺疾患】 1回2吸入(5μg)を1日1回</p> <p>【気管支喘息】 1回2吸入(5μg)を1日1回</p> <p>※1.25μg製剤(未採用)を使用して1回2吸入(2.5μg)を1日1回で使用する用法もあり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初回到カートリッジの挿入が必要 ・残量0になるとロックがかかるため使用終了がわかりやすい ・喘息に適応有り ・挿入後3ヵ月経過した物は使用しない

分類	デバイス	商品名	一般名	製剤写真	効能・効果	用法・用量	特徴
ステロイド＋β刺激薬	DPI 自吸式	レルベア100エリプタ30吸入用 レルベア200エリプタ30吸入用	ビランテロールトリフェニル酢酸塩 フルチカゾンフランカルボン酸エステル		気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 (200はCOPDの適応無し)	【気管支喘息】 1回100 1日1回 症状に応じて、 1回200 1日1回に増量可 【慢性閉塞性肺疾患】 1回100 1日1回	・最も操作が簡単(開→吸→閉のみ) ・残り使用回数目盛が大きく見易い ・開封後6週間以内に使用する
	DPI 自吸式	シムビコートタービューヘイラー60吸入	ブデソニド ホルモテロールフマル酸塩水和物		気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患	【気管支喘息】 1回1吸入1日2回 1日最大1回4吸入1日2回 【慢性閉塞性肺疾患】 1回2吸入を1日2回	・気管支喘息には、発作時に追加吸入する用法あり(SMART療法) ・残りの使用回数が数字で表示されるが小さい
	pMDI 噴霧式	フルティフォーム125エアゾール120吸入用	フルチカゾンフランカルボン酸エステル ホルモテロールフマル酸塩水和物		気管支喘息	症状に応じて、 1回2～4吸入を1日2回	・定量噴霧式のステロイドとβ刺激薬の合剤
抗コリン薬＋β	SMI 噴霧式	スピオルトレスピマツト60吸入	チオトロピウム臭化物水和物 オロダテロール塩酸塩		慢性閉塞性肺疾患	1回2吸入を1日1回	・初回にカートリッジの挿入が必要 ・残量0になるとロックがかかるため使用終了がわかりやすい ・挿入後3ヵ月経過した物は使用しない
型短β時間刺激薬	pMDI 噴霧式	サルタノールインヘラー100μg	サルブタモール硫酸塩		気管支喘息 肺気腫 急・慢性気管支炎 肺結核	1回2吸入、1日4回まで	・過度の使用により、不整脈や心停止などの重篤な副作用が発現する危険性が有り

pMDI(加圧式定量噴霧吸入器):患者の吸う力がなくても使用できるが、吸気と噴霧のタイミングを合わせる必要がある

DPI(ドライパウダー吸入器):粉末を自身の力で吸入するため、pMDIと異なり同期させずに吸入することができるが、吸気速度が速くないと十分に吸えないことがある

SMI(ソフトミスト吸入器):細かい霧を噴霧させて吸入するため、肺機能が低下している患者でも吸入しやすい